

## 検討に至る経緯

### 【行革推進プランにおける目指す姿】

#### スマート自治体への転換

方針：業務マネジメント改革

行政経営の確立：課題に対して複数部局で対応が必要な案件について、部局横断で取り組む体制の制度化

アクションプラン：部局横断プロジェクトチームの制度化

### 【国の取組み】

環境省：霞が関版20%ルール等

### 【先進自治体の取組み】

福井県：創造的活動従事制度（ふくい式20%ルール）等

職員が勤務時間の一部を活用して、担当業務以外の活動に従事

### 【庁内の動向】

- ①SWITCHプロジェクトにおける若手職員からの提案
- ②文書管理・電子決裁システムの導入による全庁的な業務時間削減効果の活用 等

限られた資源の中で、

○将来にわたって市政を支えていく人材の育成、キャリア形成

○複数の部局に関わる課題の解決

を図っていくための制度として導入を検討

## させぼ式20%ルール

○勤務時間の一部(20%以内)を使って担当業務以外の政策・施策の企画立案等の活動に従事(所属長へ届出)

○活動時間は、従事職員が勤務時間内で業務効率化等により捻出。所属長は率先して所属全体の業務削減、業務効率化を実践。

※他職員の業務を増加させる等、本務所属の業務遂行に支障を生じさせないことが前提

### 【目的】

- ①組織間の垣根や担当業務にとらわれることなく、各職員の活動意欲や専門性等を最大限活用し、政策課題の解決や業務の改善を図る
- ②職員自身の専門性等を踏まえ、主体的に従事する業務を選択し、担当業務以外にも幅広い業務を行うことで職員のモチベーション向上を図る
- ③DX戦略に基づく取組み(特に電子決裁・文書管理システム導入)による、全庁的な業務量削減効果の活用を図る

### 【活動形態】

(1) **指定課題解決型** <プロジェクトチーム等による活動>

若手職員主体のプロジェクトチームによるオフィス改革検討等

課題を所管する所属がつくる組織横断的なプロジェクトチーム等への参画

(2) **庁内人材バンク型** <職員個人による活動>

ドローンを操縦できる職員による施設の状況確認支援等

特定分野に優れた専門性・経験を活かし、既存事業へスポット的に参画

### 令和5年9月1日から運用開始

※当面は試行期間として実施し、課題等を検証のうえ、本格運用に移行

※次年度以降、職員が自発的にテーマを設定し、プロジェクトチーム等で活動する形態も導入を検討